



朝鮮通信使

朝鮮通信使は、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄慶長の役）によって断絶した日本と朝鮮の国交を回復するため、徳川家康の意向を受けた対馬第19代島主・宗義智（そうよしとし）の外交努力により朝鮮から日本に送られるようになった外交使節団です。江戸幕府の将軍が代わるごとに日本を訪れ、学問や文化の交流も深めていました。使節団は対馬 厳原港から日本へ入り、江戸まで向かっていました。対馬藩が朝鮮との外交交渉を担って、国交回復交渉から江戸時代を通して外交・貿易を展開し、両国の関係維持に尽力していました。

平成29年10月31日には「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ記憶遺産(世界の記憶)に登録されました。

現在では、8月初旬に開催する「対馬 厳原港まつり」において、韓国から正使・副使、舞踊団などを招請し、500名程の行列を再現しています。

対馬 厳原港まつり

厳原港で開催される対馬の夏を代表するイベントで、江戸時代に対馬藩が大きな役割を果たしていた国家的イベント「朝鮮通信使」の行列を再現したパレード、舟グロー（和船による競争）、納涼花火大会、子供みこし、歌謡ショー、よさこいなどが、みなとオアシスの構成施設である厳原港3・4号岸壁及びふ頭用地にて開催されます。



みなとオアシス対馬 厳原 みなとオアシス周辺の観光情報

① 万松院



対馬藩2代藩主・宗義成（よしなり）が、父・義智の冥福を祈って1615年建立し、菩提寺として特別の崇敬を受けてきました。

桃山様式の山門、百雁木、徳川歴代将軍の位牌、朝鮮国王から送られた三具足等を見ることができます。

② お船江



久田湾にそそぐ、久田川河川にある対馬藩の御用船を係留した5隻の船だまりのことで、別名お船屋ともいわれる。江戸時代、水辺の藩にはそれぞれ藩の船を格納する施設を設けていたということですが、遺存例が乏しい現在、日本の近世史上とても貴重な遺構となっている。

③ 万松院まつり



一年に一度、百雁木（ひゃくがんぎ）と呼ばれる123段の石段にある約350基の灯籠に明りを灯し、御霊をお祭りします。

闇に浮かぶ無数の灯籠が、幽玄な世界を醸し出す様は幻想的です。

④ 観光情報館ふれあい処つしま



対馬藩の家老・古川家の「長屋門」を再現した、対馬産木材と日本瓦の和風建築の観光情報館。施設内には観光案内所、特産品販売所、食堂、24時間トイレなどが設置されています。敷地内には路線バスのレーンもあり、島内各地への交通の起点となっています。

